

2020年10月26日(月)

老球の細道570号

偉大なコーチ山崎先生の思い出〈PART・VII〉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

開催が危ぶまれたウインターカップ県予選が無観客で昨日から始まった。インターハイ県予選が中止になったため、どこが台頭してくるのかさっぱり予想つかない。新人戦からのアップセットがあるのか、クリニックで教えた子ども達が高校に進学してどれだけ伸びたか、今大会をととても楽しみにしていた。

しかし、こんな大事な時期に、こともあろうに風邪をひいてしまったらしい。今まで受けたことのないインフルエンザの予防接種をしてから調子がおかしい。会津若松市政だよりで65歳以上の爺様は「GO TO インフルエンザ予防接種」で半額キャンペーンという知らせに誘われてしてしまった。熱は上がらないのだが、のどの痛みが続き、なかなか回復しない。「こんな時期」なので、皆さまに迷惑をかけてはいけないと判断し今回は観戦をとりやめ、この通信を書いている。

前回デトロイトでトラブルがあったことを書いたが、その後レイビルからエバンズビルまでのチャーターバスが3時間遅れるということもセカンダリー・ブレイクした。今風に言うアメリカ行きは「GO TO トラブル」なんていう洒落が出たかもしれない。

◆7月20日(月)

朝食はエバンズ大学の学食堂で食べた。バイキング式の豊富なメニューで生徒たちには喜ばれた。コーヒーはアメリカンだったので、日本に帰るまで濃い味のコーヒーが濃いくて、恋しくて仕方がなかった。

朝食後は時差ボケの解消ということで、大学の周囲をランニングした。本来は休息の時間だったのであるが、生徒たちはいつものように意欲的で、これからの試練に立ち向かう強いモチベーションを感じさせてくれた。ここで私も「爺様ボケ」解消として何かしなければならぬのだが、当時はまだ40代の「これが青春だ」教員だったのでしごき役だった。

午前中は学内で歓迎レセプションが開かれた。大学の学長、副学長、現地トヨタ自動車社員などが参加していた。主催者を代表して女子チームH・C キャシー・ベネットの熱いスピーチがあった。彼女がNCAAでコーチ・オブ・ザ・イヤーを受賞したり、父が有名なウイスコシン大学H・C(全米4位)で、弟は当時NBA選手であることなどが判明した。

午後からは待ちに待ったクリニックである。男子チームは近くの高校にバスで移動し、エバンズビル大学のOB3名に指導を受けた。ステーションドリル形式で、ボールハンドリング、ローポストプレイ、アウトサイドからの1:1の3つのステーションに分かれて指導を受けた。コーチ達は選手をのせるのが非常に上手で、終始和やかで、活気に満ちた雰囲気での練習が進行した。私の選手に対するアドバイスは、ハッスルすること、わからないことは英語で質問すること、そして最後に言うことは「経費30万円の元をしっかりとれ」であった。

夜はクーラーの効いた大学体育館でキャシー・ベネットのクリニックである。(続続続)